

(大正五年四月六日第三種郵便物認可)昭和十一年五月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲 學 研 究

第 二 十 一 卷 第 六 册

第 二 百 四 十 三 號

昭和十一年六月一日發行



性
と
血

—— 原本的人間及び原本的社會の
實在的諸要素 ——

文學士 高山岩男

世界觀の社會學 (承前)

文學士 樺 俊 雄

超數學の本質に就て

理學士 三田博雄 譯

榮報其他

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部
京 都 哲 學 會

前 號 目 次

地域的社會圈としての故郷と郷土（承前）……………文學士 白井二尙	正理學派に於ける量論……………文學士 松尾義海
----------------------------------	-------------------------

會 告

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪叁〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候
 京都帝國大學
 文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

◎ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
 ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
 ◎ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候
 ◎ 前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

廣 告 料

冊 數	冊 數	冊 數	冊 數	冊 數
一冊	二冊	六冊	十二冊	一頁
金拾圓	金貳拾圓	金貳拾圓	金四圓八拾錢	金參拾圓
郵	郵	郵	郵	郵
稅	稅	稅	稅	稅

昭和十一年五月廿五日印刷納本
 昭和十一年六月一日發行
 第二百四十三號 第六十一卷

不許複製
 禁轉載

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勘兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南
 内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三九三五番
 東京三九三一番

本 社 京都市下京區西洞院通七條南入
 販賣所 東京市日本橋區室町四丁目
 内外出版印刷株式會社

寶文館 東海堂
 寶文館 上田屋
 寶文館 盛文館
 寶文館 川瀨書店
 寶文館 大盛社

賣捌所 (大坂) 寶文館
 (神戸) 寶文館
 (京都) 寶文館

服部先生記念論文集

同刊行會編

定價四圓八十錢
送料內地・三領土・六

本書は本年古稀の壽に達せられた文學博士服部宇之吉先生の學界の功績を記念する爲めに七十餘の先生の知友及び受業門生が相寄り起草された一大論文集

菊 判
二二三頁

最新刊

□ 内容目次

賀頌文藻・元滿洲國總理大臣鄭孝胥 ^号 十氏	孔子の教育法	秋月胤繼
尚書孔傳と玉肅	宇野哲人	小柳司氣太
清初の三教	加藤繁	金澤庄三郎
反切の一異例	久保猪之吉	島田鈞一
漢字配列法私案	鈴木虎雄	高瀬武次郎
公羊の復讐論	安井小太郎	
君子字義考		
三定論		
續詩疑		

スレノザ哲學に於ける善惡の概念	安倍能成
詩經に關する考察の一二	安藤圓秀
朝鮮に於ける水軍の起原及び其の組織	池内宏
鈔本百二老人語録及び其の著者	稻葉岩吉
周易より見たる政體の本質	鶴澤總明
高昌國に於ける儒學	大谷勝眞
夫餘國の始祖東明王の傳説に就いて	白鳥庫吉
帆足萬里考定齋庚	高田眞治
朝鮮學者の土地平分説と共產説	高橋亨
鄭代親屬記增訂	江岸
金の李屏山撰 鳴道集説 について	常盤大定
日本儒道の一考察	中山久四郎
焮煥發見唐水部式の研究	仁井田陞
荀子正文稽疑正名篇稿	野村岳陽
王門の薛中離に就いて	山田準
朱子學に於ける識仁定性二篇の地位	吉田賢抗
文明の行衛今いづこ	渡邊龍聖

東 神 京 田
富山房

振五電二
替〇話七
東一神一
京番田八

(大正五年四月六日)昭和十一年五月廿五日印刷納本(毎月一回)
第三種郵便物認可(昭和十一年六月一日發)行(一日發)

哲學研究 第二百四十三號 定價金四拾錢

郵税金壹錢